



第4章 木育による協働の森林づくり

木育による協働の森林づくり

私 たちの身のまわりでは 1 枚の紙から家具、建築物にいたるまで、木から生まれた製品が使われていますが、その素材になった木を、さらにはその木が生きていた森を想像できる人はどれだけいるのでしょうか？

木育は、「人と、森林や木材のつながり」を重視し、豊かな「人づくり」と「社会づくり」をめざす北海道発の新たな概念です。

協働による森林づくりに当たっては、道民、森林所有者、事業者及び道が木育の考え方を共有し、自主性や自立性を尊重しながら適切な役割分担により、環境負荷の少ない、人と自然が共生できる豊かな社会の構築につなげていくことが重要です。



●木育とは？

豊かな森林と木材に恵まれた、北海道生まれの言葉「木育」。

それは、子どもをはじめとするすべての人が木を身近に使っていくことを通じて人と、森や木とのかかわりを主体的に考えられる豊かな心を育むことです。

「木とふれあい、木に学び、木と生きる」取組です。

“木とふれあう”

「五感と響き合う感性」をバランスよく育むために、心の健やかな発達のために、木の道具を使うことや、生活空間に木を増やすこと、森や木と積極的に関わることです。

“木に学ぶ”

遊びや日常の中で、「モノを想像する知恵や力」を養っていくために、北海道の森林や木材、それらを取り巻く社会環境を、学校や地域のさまざまな学びの中に取り入れることです。

“木と生きる”

森と木を通じたくらしの中から「人間が本来生きるための本質的な力」を呼び起こし、私たちの生活を木に寄り添い、共に生きるものにするのです。

●木育のめざすもの

木育がめざす「人づくり」

五感と響き合う感性

木と五感でふれあい、手でづくり、手で考える経験をとおして、自分自身を大切にすることを知り、人や自然に対する「思いやり」と「やさしさ」を育みます。

共感を分かち合える心

身近な人と一緒に木で遊び、木に学び、木でモノをつくる体験を通じて、楽しさや喜びを共感し、地域や社会、産業への関心につなげます。

木育がめざす「社会づくり」

地域の個性を生かした木の文化

地域の森や木の良さを見直し、木が身近にある北海道ならではの、くらしや文化を育みます。

人と自然が共存できる社会

循環利用が可能な資源である木の可能性や、森や木に携わる仕事の素晴らしさを伝え、持続可能な未来に向けた社会をめざします。

●木育について考えてみませんか？

木育の先生がいます

北海道が認定する木育の専門家「木育マイスター」。

「木育活動」の企画立案や運営実施の、アドバイスやコーディネートができる人たちです。

「木育マイスター」は、それぞれの得意分野（森林、木材、ものづくり、幼児教育、介護など）を持ち、それらの経験を生かしながら「人とのつながり」によって、さまざまな木育活動をプロデュースしています。



1 「樹(森)を知り木で遊ぶ in 阿寒湖」
2 「木育フェア in アリオ札幌」

木育について知りたいときは？

木育についてもっと知りたい方は北海道のホームページはもちろん、たくさんの人たちが情報を発信していますのでぜひご覧ください。



北海道の木育
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/mokuiku/index1.htm>



木育ファミリー <http://www.mokuiku.net/>



身近なことからはじめてみよう



木育の取組は、特別とか新しいことではありません。
みなさんの身近な生活の中に“森”と“木”を感じる
時間やモノを取り入れることから始めてみてください。

生活の中に木のモノを

森に行くことができなくても、
普段づかいのモノ・
子どもたちが使うモノなどに
木を取り入れることで、
心豊かな時間を
過ごすことができます。
その木がどこから来たのか、
外国なのか北海道なのか、
思いをはせてみると、
より愛着が湧くことでしょう。



近くの森に行ってみる

お休みの日に、おうちの
近くの森や林に
少し寄ってみませんか？
おいしい空気の中で、
さまざまな木々や葉の色・
風・かおり・動物の動きを
感じることができます。
家に帰るころには、
気分もリフレッシュされて
いることでしょう。

木とふれあう



気軽に木にふれ、木に包まれることで、木のよさを感じましょう。木の道具を使ってみたり、生活空間に木を増やすなど、木と積極的に関わって「五感と響き合う感性」をバランスよく育むことは、人の心を健やかに発達させていく大きな要素です。

～木育で言う「木」とは、森林と木材との両方を指しています～

1 森林や木材とふれあうことができる場に行ってみよう

道内には、森林や木材とふれあうことができる場所がたくさんあり、その楽しみ方もさまざまです。

当別町・月形町にまたがる道民の森では、いつでも気軽に植樹や木工ができます。また、“森のようちえん”や“自然観察会”など、森と仲良くなれるさまざまなイベントに参加できます。

道内にはほかにも、各地の森林公園など森林とふれあえるフィールドがたくさんあります。また、木があふれる木造施設や、大きな木製遊具のある遊び場に気軽に出かけて、木とふれあいましょう。

商業施設などを中心に開催される「木育ひろば」などのイベントでは、いろんな木製遊具にふれあうことができます。



2 森林や木材とふれあうことができる機会をつくろう



森林や木材とふれあう機会が身近にあれば、道民の皆さんが木育活動に気軽に参加できるようになります。木育マ

イスターと協力して森林や木材とふれあうプログラムを考えてみたり、北海道が主催する植樹祭や育樹祭、民間企業や団体などが中心となったイベントに参加するなどのさまざまな取組があります。

家庭でも木にふれあう取組があります。木の家具や建具はもちろんですが、庭にウッドチップを敷いてみたり、木の器などを使ってみたりなど、たくさんの機会をつくることができます。



1 木材をふんだんに使用して建てられた小学校、2 森や木とのふれあい、3 道民の森工芸館での木工教室、4 木の器とカトラリー

●「木とふれあう」取組

水源の森

道民の森神居尻地区の「水源の森」では、企業や団体などが毎年継続して植樹や育樹等を行うなど、水源林を復元しながら森林の役割などについて学ぶことができます。また、道民の皆さんが気軽に植樹体験できる場所として、エコチャレンジの森も設定しています。



北海道植樹祭

「植えて、育てて、伐って・使って、また植える」という森林資源の循環利用等の視点を踏まえ、総合的な森林づくりの行事として、多くの道民の参加をいただいで開催しています。



道民森づくりネットワークのつどい

森づくりに関わるボランティアや行政、森林所有者のネットワーク形成に向け、道民の皆さんの参加をいただき、毎年、道庁赤れんが庁舎前で開催しています。



みらいの森

全道各地の道有林の一部を「みらいの森」に設定し、企業や団体などが継続して植樹や育樹を行える場を提供しています。また、誰でも参加できるように、技術指導や用具の貸出等も行っています。



木育ひろば

木製遊具を用意し、親子で遊んだり、他の大人と話をしたり、子どもも大人もゆっくり過ごしてリフレッシュできる空間。木の感触や、匂い、色、などを体感してその感覚を楽しむことができます。木育マイスターが常駐している施設もありますが、商業施設などでは木育教室なども組み合わせながら期間限定で取り組んでいる所もあります。



きぼうのプールづくり

「きぼう」を使って「メッセージを全道各地に伝えてみよう」という取り組みです。そもそも「きぼう」とは、北海道産のカラマツやトドマツを使った木の棒です。直径は 2cm、長さは 7.5~10cm ほどあります。この「きぼう」にバーニングペンなどでメッセージを残していただき、この「きぼう」が入った「きぼうのプール」が全道の木育イベントなどを巡回しています。



木に学ぶ



森や木について関心を深め、
知識や技術を身につけましょう。
木は何万年も前から
更新を繰り返して生きてきました。
人間も大昔から木と身近に接し、
木から学び、
木の恩恵を受けながら
現在に至っています。
現代の生活においても、
人は木から学ぶべきことが
数多くあります。

3 森林や木材に関して学ぼう

樹木や木材を実際に見て触れながらさまざまな体験をすることで、木からいろんなことを学ぶことができます。こうした体験を行うことができる森林が道内の市町村に設置されています。また、森の働きを学習できる施設や、道有林を活用した植樹や枝打ちの体験や木を使った加工・利用体験なども開催しています。

木育マイスターの活動の中にも、保育所や商業施設などに出向いての木育教室や、「木育フェスタ」などのイベントで、「森のようちえん」など森林や木材について学ぶ機会を設けています。

4 木育活動に参加しよう

子どもの頃から木にふれることにより、森林や木材の大切さを小さい頃から体験・学習することができます。



教育関係機関と連携した青少年を対象とした森林環境学習の機会や、木育マイスターによる木育教室など、子どもが参加できる取組もたくさんあります。

5 木育に関するプログラムや情報の提供に取り組もう



協働の森林づくりを進めるためには、道民のみなさんに森林や木材へ関心を持ってもらうことが必要です。

こうした関心を促すために、さまざまな木育活動の場で、森林の持つ魅力や、環境にやさしい素材である木材を利用する有効性について紹介することも大切です。

木育マイスターが企画する木育のプログラムや木育活動の取組事例は、「北海道の木育」ホームページでも紹介しています。



1 森林環境教育の様子、2 木育マイスターによる木育教室（標津おもちゃの広場 & 木育フェスタ）、3 木育事例集

●「木に学ぶ」取組

げんきの森

道内の全市町村に「げんきの森」が設置されており、森林ボランティアが中心となって、植樹、育樹、森林体験、林業体験などさまざまな活動が行われています。子どもたちはもちろん、大人の方も森林にふれあい、学ぶことができます。



森林の働きの理解

私たちの身近にある森林や木材にはさまざまな働きがあり、こうした働きを理解しながら、森林づくりを進めていくことが大切です。

美唄市の林業試験場では、森林の働きなどについて、また旭川市の林産試験場では、木材が持つ特性などについて学習することができます。



緑の少年団

緑の少年団は、次代を担う子どもたちが、緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる活動を通じて、ふるさとを愛し、そして人を愛する心豊かな人間に育てていくことを目的とした団体です。学校や地域単位で組織され、植樹、育樹、緑の募金などさまざまな地域活動に取り組んでいます。



森林環境教育の実践・体験

森林内でのさまざまな体験活動等を通じて、人々の生活や環境と森林との関係について理解と関心を深める取組です。森林をより身近に感じることができる、森林づくりに関する講演会や、植樹祭、森林散策、木工場の見学会、木工体験、絵本の読み聞かせなどのイベントが、道内の各地で開催されています。



木育のプログラム

道内では、森の中での体験活動や木工教室、木工場の見学会など、木育マスターが企画するさまざまな木育プログラムが行われています。

木育の目指すところは、樹木や木材について詳しい人を育てることではなく、自らの行動やライフスタイルを変化させ、北海道の森林やそこから生み出される木材を上手に活用し、ともに生きていける人や社会を育てることです。



木育マスターが企画するプログラムは、参加者が感覚を使い「体験」することで、自身のライフスタイルを森や木を上手に活かしたものに変わっていくきっかけを与えてくれます。



木と生きる



家庭や地域、社会で
木育が実施・継続される
ようにしていくため、
これからも人と木が共存しながら、
社会を築いていくことが重要です。
私たちの生活が木に寄り添い、
木とともに生きるものとし、
協働の森林づくりを進めるためにも、
木育を息の長い道民運動として
推進していくことが大切です。

6 積極的に森林づくり活動に 取り組もう

森林づくりといってもいろいろな活動があります。できることから気軽に取り組んでいきましょう。みなさんの積極的な森林活動への参加が、地域の森林を育み、北海道の森林づくりの推進へつながります。

道内では漁協女性部や地域住民などが中心となった森林づくり活動が行われているほか、森林サポーターや森林ボランティアの皆さんが積極的に森林づくり活動に取り組んでいますので、気軽に参加してみませんか。

また、みなさんの森林づくりを支援するため、北海道や企業などがさまざまな助成制度を設けているほか、緑づくりへの活用などを目的とした募金活動があります。



1 企業の社会貢献活動による森林づくりの様子、2,3,4 道産材を使用した茶碗、おもちゃ、弦楽器

7 「木の文化」づくりを進めよう

私たちは、昔から木と共に生活してきました。木に囲まれた生活空間を整えることや、いつでも木にふれることのできる暮らし方は、私たちの心や体を健やかに保ちます。

たとえば、家を建てるときの柱や梁に地元で育った木を使ってみてはどうでしょうか。ふだん使っている箸や食器を木製に替えてみるのも良いかもしれません。



地域で生産された木材・木製品を地域で利用する“地材地消”を進めることは、地域の林業・木材産業の活性化など、さまざまな経済効果を生み出すとともに、“地材地消”で地域に戻ってきた資金により地域の森林の手入れを進めることで、国土の保全にもつながるほか、木材を遠くから運ぶ時に発生する二酸化炭素を抑制できるなど、環境にもやさしい取組です。

豊かな森林や木材に恵まれた北海道だからこそ、地域でつくられる木材・木製品を積極的にライフスタイルに取り入れましょう。



また、森林づくりの過程で出る林地未利用材などの木質バイオマスが無駄なく有効に利用することも、森林資源の循環利用を考えるうえで大切です。



5

最近では、木質ペレットやチップを燃料とするストーブやボイラーの利用が広がっています。



6

さらに、北海道の豊かな森林は、木材や木製品だけではなく、おいしいきのこや山菜、木炭、紙製品などのさまざまな恵みを私たちに与えてく



7

れるほか、森林浴や森林療法などによる森の癒し効果は、私たちの健やかな心と身体を育ててくれます。

こうした森林や木の良さを再認識し、生活の中に木を積極的に取り入れていくことで、地域の森や木の良さを活かした「木の文化」づくりや、人と木が共存できる社会づくりを進めましょう。



ペレットストーブは暖かいなあ…

5,6 ペレットストーブとその燃料となるペレット、7 シイタケの原木栽培

より理解を深めてもらうための解説

《バイオマスエネルギー》

バイオマスとは、生物由来の有機性資源のことです。木質バイオマスには樹木の枝・葉や未利用間伐材などの林地未利用材（林地残材）、製材工場などから出る端材などがあり、これらを燃焼させて得られるエネルギーが木質バイオマスエネルギーと呼ばれています。

《地域材》

北海道の森林から産出され、道内で加工された木材のことです。北海道では、地域材の利用を推進するため「北海道地域材利用推進方針」を策定し、公共建築物をはじめとする幅広い分野で地域材の利用を促進することで、森林資源の循環利用による森林・林業の再生や山村地域の活性化、地球温暖化の防止等に貢献することを目指しています。

《合法木材等証明制度》

木材の合法性と産地を同時に証明できる制度です。道内で生産・加工された木材・木製品の原木の伐採地を証明することにより、消費者が木材等を選ぶために必要な情報を提供するものであり、地域材の利用を通じた地域の発展と豊かな環境づくりに役立っています。

《森林認証制度》

一定の基準を満たす適正な森林経営が行われている森林又は経営組織などを認証する制度です。認証を取得した森林から生産された木材・木製品であることをラベルなどで表示します。消費者は、森林を破壊して生産された木材製品の使用を避け、認証された製品を買うことで、世界中の森林の保全に貢献できるというものです。北海道でも、こうした森林認証を取得する地域が広がってきています。

●「木と生きる」取組

魚を育む森林づくりの取組

魚などを殖やしたり、その生息環境を守るためには、森・川・海に関わる人々が連携して森林づくり活動を推進することが重要です。道内各地で漁協女性部などが中心となって植樹を行う「お魚殖やす植樹運動」や、地域住民の方たちが中心となり、魚などの生息環境を守るために植樹や下刈り等を行う「北の魚つきの森」の取組が行われています。



森林ボランティア団体への実践研修

森林づくりの適切な方法を知り、そのために必要な道具と取扱いの正しい知識を身につけることは、活動をより安全に、また有意義なものとしてくれます。

道では、森林ボランティア団体などを対象に、保育の基礎知識やチェーンソーと刈払機の実践研修を実施しています。



緑の募金

昭和25年から始まった「緑の羽根募金」はその後法律で制度化され、「緑の募金」として親しまれています。集まった寄付金は学校や公園などの緑づくりや森林を守り育てるために活用しています。



北の木の家

北海道木材産業協同組合連合会（どうもくれん）では、品質が優れた地域材を使用した住宅を「北の木の家」として認定し、地域材の需要拡大を図っています。「北の木の家」の認定を取得することによって、住宅ローン金利が優遇される場合がありますので、詳しくは金融機関にご確認ください。

なお、地域材であることの証明には、「合法木材等証明制度」や「森林認証制度」などが活用できます。



大人の木育

木のおもちゃで遊ぶことは、「木育」の大切な取組のひとつですが、それだけが「木育」ではありません。木にふれるという活動でも、「カホンづくり」や「マイ箸づくり」など、大人も一緒に楽しめる木育がたくさんあります。「木とふれあう」で紹介させていただいた「きぼうのプール」に自分のメッセージを残していくことは、「大人だからできる」ことの1つです。



身近な北海道の木で「箸置き」や「スツール」など家庭で長く使うことのできる「生活の中で使われる木製品」を作ること、使うこと。森でコンサートを聴いてみることで、森の中を歩いて、自然や環境について、そして自分自身との関わりについて考えてみることで、・・・こういったことに「心を動かされる」こと自体が「木育」なのです。

